



# 門真四中だより

## 「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和5(2023)年1月16日

第61号

編集・発行：校長 上甲 尚

## 避難訓練を行いました

### ～阪神淡路大震災から28年 未曾有の大震災から何を学ぶべきか～



今日は授業中に大地震が発生したと想定し、避難訓練を行いました。校舎は耐震工事が施され、大抵の地震には耐えられるようになってきていますが、万が一に備えて自分の体(特に頭部)を守り、揺れが収まったのを確認したら安全な場所(グラウンド)に速やかに移動する必要があります。避難4原則の「おはしも」(押さない・走らない・しゃべらない・戻らない)を意識して行動することが大切です。学校は大勢の人が一緒に生活する場所なので秩序正しく行動しなければ、大事故につながってしまいます。

今から28年前の平成7(1995)年1月17日午前5時46分、京阪神地方で巨大地震が発生しました。「阪神淡路大震災」です。震源は兵庫県淡路島の北部で、最大震度7の激震でした。とても大きな揺れだった上に直下型地震で、神戸など大都市近辺の地下の浅いところで発生したので、被害が大きくなりました。大阪でも震度6を観測しました。神戸・西宮方面では、木造の家はぺっちゃんこにつぶれ、大きなビルが倒壊する激震でした。阪神高速道路が横倒しになり、電車の線路が歪んでしまうほどの大きな揺れでした。阪神地区、淡路島を中心に6434名の方が亡くなり、負傷した人は4万人を越えました。亡くなられた方の死因の多くが激しい揺れで倒壊した家屋の下敷きになる「圧死」でした。

被災地では電気・ガス・水道のいわゆる「ライフライン」が完全に寸断され、機能なくなっていました。多くの人々が避難所生活を余儀なくされたり、何年もの間「仮設住宅」で生活せざるをえなくなりました。大切な家族や親戚、友人、仲間、家や仕事を失った方がたくさんおられました。阪神・淡路大震災で炊き出しや救助活動など、一般市民の「災害ボランティア」が定着しました。1995年は「ボランティア元年」と呼ばれています。ボランティアに携わった人はのべ167万人にも達しました。人は、助け合って生きているのだということも実感しました。

震災から3か月ほど経った4月下旬頃、JRに乗って神戸・三宮まで行ってみました(阪急、阪神電車は当時、まだ完全に復旧していませんでした)。西宮あたりになると、車窓からぺっちゃんこにつぶれた家や倒壊したビルがたくさん見えてきました。神戸・三宮駅前のビルは、配線などがグチャグチャになった状態で斜めに倒れていて、あまりに悲惨な光景に絶句してしまいました。まるでSF映画を見ているようで、「これは本当に現実なのか…」と信じられない思いでした。

当時、私は一中で1年生を担当していたのですが、震災から2週間ほど経った頃、1人の女子生徒(Aさんとします)が神戸の中学校から転校してきて、担任することになりました。ライフラインがすべて止まり、家(マンション)の中がメチャクチャになってしまったので、復旧するまでの間、知り合いのいる門真のマンションに引っ越してきたのです。それまでは避難所で生活していたそ

うです。Aさんが当時書いてきてくれた班ノートの一部を紹介します。

あの大地震から半月たっている。今思うと、私って本当に幸せだな~とってしまう。だって避難している人たちは家がつぶれたり、学校が避難所になってたりして、学校に行けない人もいるし、残念なことになった人たちも5千人以上もいる。私の学校も2人亡くなっていて、保健の先生と中学1年生の男子だった。私のクラスでは誰も死んでなくて良かったと思ったけど、あの2人のことを思うとそうは思えなかった。【中略】

~17日~

午前5時46分、震度7とみられる大地震が起こる。私は最初何が起こっているのか分からなくて、ふとんの中でうずくまっていた。何か様子が変わったので、そおっと見てみると、部屋がぐちゃぐちゃになっていて、クローゼットの中身が全部こぼれ、本棚が倒れ、ベッドが50cmぐらい動いていた。その地震があつてから10分に1回ぐらい余震が来て恐かった。その日は車の中で過ごす。寝ている間にも地震が...

~18日~

余震が続く。余震が何度も続くので、できる限りの荷物を車に詰め込んで、いつでも逃げられる体勢を作っていた。ほかの家は見る限り、木造の家は全部つぶれていた。一応、家の周りを見てから、車に乗って大阪に逃げた。尼崎に着くまでになんと10時間もかかった。途中でガソリンがなくなりそうだったので恐かった。なんとか無事にガソリンも手に入れて、尼崎まで行った。そこで初めて水を飲み、ラーメンが食べられた。こんなに水がおいしいとは思わなかった。【後略】

地震が起きた瞬間、ベッドで寝ていたAさんは、下から突き上げるような激しい揺れで目が覚め、トランポリンのように体が何度も宙に浮き、何が起きているのかわからなかったそうです。食器などが床に落ちて割れたり、棚が倒れたりする音がものすごく、「お母さん!」と大声で叫んでも声が届かなかったそうです。外に逃げようとしても玄関のドアが歪んでいてなかなか開かず、その間に何度も大きな余震が来て、「死ぬんじゃないか」ととても怖かったと話していました。

明日(17日)は神戸を中心に各地で「追悼集会」が開催されます。亡くなられた方々、被災された方々に心から哀悼の意を表します。皆さんもテレビや新聞、インターネットなどの報道・記事を見たり、お家の方に話を聞いたりして、少しでも知識を得て、「命の大切さ」に思いをはせてほしいなと思います。

## 1年生「部落問題学習」



1年生は13日(金)、「部落問題学習」の一環として、池田市立池田中学校の油井健史先生を講師にお招きし、ゲーム形式で学習しました。金額が違うお金を所持し、オークションで様々な買い物をするという設定です。お金を持っている人と持っていない人の立場を体験しました。

その後男女差別、障がいの有無、出自の違い...。様々な不平等を体験し「部落問題学習」につなげました。「差別は噂から始まることが多い」「差別に出会った時に正しい行動をとれるようになってほしい」と話されました。とても考えさせられる授業でした。